市報 にいがた

昭和58年 第854号
7月10日

市の人口

		前月比
人口	459,868	（＋ 667）
男	225,341	（＋ 333）
女	234,527	（＋ 334）
世帯数	148,660	（＋ 476）

58年5月末現在

発行日 毎週日曜日
発行所 新潟市役所 新潟市西堀通6番町866 電話代表(28)1000
編集人 二宮省三（担当企画部広報課）
印刷所 ㈱第一印刷所

信濃川関分下流

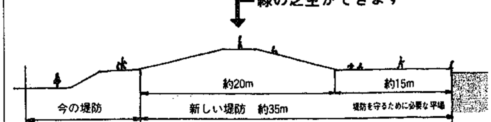
新堤防着工へ

洪水から県都を守る

建設省北陸地方建設局では、百五十年に一度の大雨にも耐えられる新堤防を信濃川の関屋分水下流の両岸に造ることになり、今年秋にも事業に着工の予定です。

信濃川本川・関屋分水下流改修事業は、関屋分水の分流点から万代橋までの延長約四・五キロの両岸に、高さも厚みもある新堤防を整備し、新潟市民を洪水の危険から守ろうというものです。

信濃川新堤防のイメージ図
（"市報にいがた" 都市問題懇談会提言特集号から）



上の図は代表断面の寸法です

新堤防は、現在の堤防より約一メートル高くし、幅は約三十五メートル。関屋分水の分流点下流から万代橋までの延長約四・五キロメートル、両岸約九キロメートルを整備するもので、川幅は現在の約二百七十メートルから約百九十メートルになります。

堤防の斜面は五割こう配（十メートルの距離で二メートル高くなる）を採用し、現在一般に用いられている二割こう配（二メートルで一メートル高くなる）よりグンとゆるやかになります。

新堤防の当面の事業費は約百三十億円です。

150年に一度の大雨でも大丈夫

この改修計画は、四十九年の信濃川流量改定に基づいて北陸地建信濃川下流工事事務所が五十五年に策定しました。流量改定では、国が進めている百五十年に一度の大雨にも耐えるような堤防造りを基本に、信濃川の最大流量を毎秒四千二百トン（統計学的に百五十年に一回降る可能性の雨）とし、そのうち三千二百トンを関屋分水から流し、千トンを信濃川本川で流す計画です。

これに対し、現堤防は高さも盛り土の幅も極めて不十分なうえ、信濃川本川は毎秒五百トンがやっと。千トンを流すにはもう五百トン足りなくなり、千トンを流せる断面を持つ堤防を新設する必要に迫られてきました。

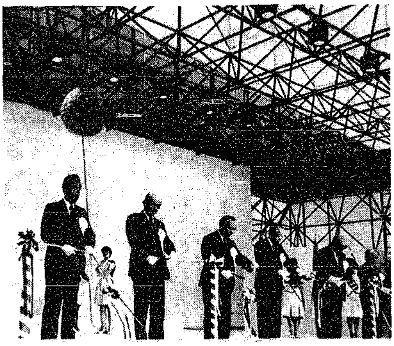
新堤防は、堤内（堤防より内側）に拡幅するのが原則ですが、信濃川の場合、家屋が密集して難かしく、堤外（川側）に堤防を拡げざるを得なくなったものです。

関分下流左岸から着工

今年度の予算は約一億円。工事は、関分左岸上流から、川を掘り下げた土砂で堤防の形を造っていき、約二百五十メートル下流方向に進む予定です。当面は土砂を吹き上げていき、何年か後にはより安全な施設をつくることにしています。

完成は通常のペースからいっても二十年以上はかかる大工事となります。

臼井博美北陸地建信濃川下流工事事務所副所長は「昨年の長崎豪雨水害や羽越災害など統計学的には考えられない雨が最近降っていて、百五十年に一回の確率といっても、いつ降るかわかりません。信濃川の堤防の上に立ってみると、新潟市民を守る堤防としては現堤防がいかに貧弱なものかよくわかり、新しい堤防がどうしても必要です。市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします」と語りました。


白いテープにはさみが入れられ、'83新潟博が2ヵ月間にわたる幕をあけました

'83新潟博が開幕

15のパビリオンが勢ぞろい

上越新幹線開通を記念した"'83新潟博覧"が、七月一日、親松の博覧会場で開幕しました。

午前九時のテープカットには君県知事や若杉市長らが出席して白いテープにはさみを入れ、八月三十一日までの六十二日間にわたる'83新潟博の幕をあけました。

あいにくの雨にもかかわらず、開門と同時に県内から観光バスでかけつけた老人クラブの団体客や、この日を心待ちにしていた新潟市民らが入場、十五のパビリオンを見て回り未来の新潟にふれ感激していました。

市職員（技能労務職）を募集

締め切りは16日

試験日 八月十日（水）

試験場 市立高志高校

試験の内容 第一次試験…筆記試験、適性検査、第二次試験…第一次試験合格者に後日実施

職種と受験資格 ①給食調理員（女性に適した業務）②その他（清掃作業員等）

昭和二十三年四月二日から同四十年四月一日までに生まれた人で、学校教育法に基づく短期大学卒業以下の学歴を有する人。ただし高校および短期大学を五十九年三月三十一日までに卒業する見込みの人は除きます。

採用予定人員 各職種とも若干名

試験案内と申込用紙 市人事課（本庁二階）で差し上げます。郵送希望の方は、あて先を明記し、六十円切手をはった返信用封筒を同封して、封筒に「案内請求」と明記して下さい。

申し込み 十六日（消印有効）までに、市人事課（〒951 西堀通六—八六六）へ。受付時間は、平日が午前八時半から午後五時、土曜日は正午までです。

"松くい虫"の被害が太郎代に

～松枯れの早期発見にご協力を～

松の大敵"松くい虫"が市内太郎代に発生し、被害が出ました。市では直ちに防除を行いましたが、今後、市内でも流行の恐れがあります。

松くい虫は、七月から活動期に入ります。皆さんの身近で突然松枯れが発見されたら、至急農林課、または公園緑地課（☎28—一〇〇〇）へご連絡下さい。

松くい虫の防除は、松を伐採し、焼却する方法が一番です。個人所有の松は、自分で防除することが原則ですが、周辺に及ぼす影響が大きいため、農林課または公園緑地課へご相談下さい。

保存樹を訪ねて ⑮

"曽和のさいかち"

床飾りにしたらピッタリと合いそうなさいかち。数年程前までは枝をいっぱいに伸ばした、七メートルもある元気な木だった。地下水の影響か、立枯れが目立ち始め、三、四年前に、てっぺんから四メートルばかり切ってしまった。

「子供のころ、隠れ鬼をして、幹の側に入り込んで遊んだほど大きな木で、幹も今の倍はある、それは立派な木でした」（朝妻徳衛さん74歳）。神明宮のさいかちにじっと見つめられてきた曽和地区も、県の研修センターができ、また地区内を抜ける待望の西バイパスが国道116号と結びつく日も近い

〈メモ〉 **所在地** 曽和神明宮
樹種 さいかち **樹齢** 約二百年
幹周 約三メートル **高さ** 約二メートル

〈くらしの一日教室〉

知っておきたい豆腐と豆乳の知識

日時 七月二十六日午後一時半～三時半
会場 中央公民館 **定員** 四十人（先着順）
申し込み 電話で市消費生活センター（☎28—八一〇〇）へ

高年齢者（55～64歳）職業相談

受付時間 平日…午前9時～午後4時、土曜日…午前9時～正午
会場 市民相談室（中央公民館1階）

県内へ就職希望の学生の皆さんへ

大卒者就職ゼミナール

日時 8月2日午後1時～4時半
会場 新大教育学部大講議室（五十嵐キャンパス、新大行きバス終点下車）
対象 来春、大学、短大、高専の卒業予定者
内容 県内産業界の現状、採用見込み情報 **定員** 450人（先着順）
申し込み 7月25日までに、往復はがきに住所、氏名、大学・学部名、帰省先、返信用にあて名を明記し、新潟公共職業安定所大学相談室（〒950 万代3—4—38 ☎44—0131）へ

市役所の立体駐車場利用時間が変りました

平日…午前8時半～午後5時半
土曜日…午前8時半～午後2時
日曜日・祝日…午前10時～午後7時

つり鉢の作り方と管理

日時 7月13日午後1時15分～3時15分
会場 市園芸センター（越後石山駅下車）
定員 50人（先着順）
申し込み 7月10日から電話で市園芸センター講習会係（☎86—1034）へ

郵便局から

犬の飼い主の皆さんへ

郵便外務員が宅地内で、飼い犬にとびつかれたり、かまれたりする被害がでています。飼い犬は郵便受箱から離してつないで下さい。